

街路樹

算数・数学科の授業改善 (ICT活用の視点)



SCの活用について

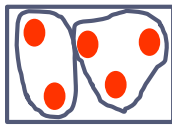
算数・数学科において、子どもたちに身に付けさせたい力は、「正解」を求める力でしょうか。私たちは、子どもたちに「正解」だけを求めさせる教育観から、子どもたちが「自分自身や他者が納得できる解」を求めることができる力を身に付けさせていく教育観へとアップデートをしていかなければなりません。

その上で、算数科・数学科におけるICTの活用について考えてみましょう。

例えば、 $2+3$ の問題を解き、オクリンクで提出ボックスに「5」という答えを送る活動をしたとします。その時、子どもたちはどのような反応をするでしょうか。「わたし正解」「間違えている人がいる!」と「5」以外の答えは間違いとして捉えられ、子どもたちは、数字を正解か不正解かという視点でしか見るができなくなってしまう。

もちろん子どもたちに「正解『5』」を求める力を付けさせることは大切です。しかし、本当に大事なことは「どうして『5』になると言えるのか」を、子どもたち一人一人が図や式、言葉を用いて理解を深めたり、友達が納得できるように図や式、言葉を関連付けながら論理的に説明したりすることが大切なのではないのでしょうか。

そうしたことを考えると、算数科・数学科におけるICTの活用は、オクリンクで提出ボックスに「5」という答えを送るといった「正解」の交流ではなく、「どうして『5』になると言えるのか」といった「思考の過程」の交流のために使用することが効果的な活用と言えるのではないのでしょうか。例えば下のようなシートを端末に配布し「本当に『5』と言えるのかな」と子どもたちに問いかけることで、「5」になる根拠や思考の過程を子ども一人一人が表現することにつながるかと思えます。



「正解」の交流ではなく、「思考の過程」の交流を目指したICTの効果的な活用を考えていきましょう。

今回は、校内におけるスクールカウンセラー(以下SC)の活用について考えてみます。

SCの業務内容には、次のようなものがあります。

- ① 児童生徒に対する相談
- ② 保護者や教職員に対する相談・助言
- ③ 校内会議(生徒指導委員会等)への参加
- ④ 教職員や保護者、児童生徒への研修や講話
- ⑤ 相談者への心理的見立てや対応
- ⑥ ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的対応
- ⑦ ITによる授業(各教科及び道徳科、特別活動等)

学校現場におけるSCの主な活用は、上記①②にある「児童生徒や保護者、教職員に対する相談・助言」であると思いますが、この時に留意しなければならないことは、「SC任せ」にならないことです。「SCさんに悩みを聞いてもらっているから大丈夫」という活用で終わっていないでしょうか。

SCのカウンセリングは、日常的に児童生徒と向き合っている先生方につながる必要があります。学校で見られる困難なケースをSCに紹介すれば終わりということでは、有効な活用とはなりません。SCの専門的な観点からの見立てや助言を生かし、児童生徒の課題に対する手立てを考え、先生方の児童生徒へのかかわりにつなげたり、上記③の校内会議への参加や④の教職員の研修の内容に加えたり、活用の幅を広げていくことが大切です。

これらの取組により、専門家を含めたサポートチーム体制が構築され、児童生徒への支援がより充実するものと思います。



情報教育主任研修より

GIGAスクール構想2年目に入り、1人1台端末の活用状況はいかがでしょうか。ICT活用アンケートの内容や各種研修での先生方の様子、学校訪問での授業を拝見すると、多くの先生方が試行錯誤しながら積極的にICTを活用した授業を進めていることが感じられます。一方で、学校間や教師間でのICT活用の差が広がっているという課題も浮かび上がっています。学習指導要領総則には、初めて「情報活用能力」が明示され、「情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力の1つである」と、その育成の重要性が示されました。また、今後、急速に変化する社会を生き抜かなければならない子どもたちに、将来にわたってICTを活用して様々な課題を解決していくための資質・能力を育むことを考えると、学校教育でしっかりICTを使った学び方を体験させ、情報活用能力を確実に身に付けさせなければなりません。

今回の研修では、夏井小学校と内郷第一中学校の先進的な事例をご紹介いただくとともに、学校現場でのGIGAスクール構想実現に向けた取組みについて協議しました。2つの学校とも、苦労を重ねながら様々な課題を乗り越えていく中で、先生方も子どもたちもICT活用に慣れ、効果的な活用ができるようになってきています。「まずは使ってみる」ことを学校全体で推進し、子どもたちとともに学びながらICTを活用した授業を実践していきましょう。

【ICTの活用を進めるために】

- ① まず、先生が端末を使い、操作に慣れるとともに端末を使うよさを知ること
- ② 授業でいきなり効果的な活用を目指すのではなく、授業のちょっとした場面や授業外でまず使ってみること
- ③ どのように使ってみたのかを、校内研修等を生かし教師間で共有すること

